



Source: CQG, Inc. © 2006 All rights reserved worldwide.

13日

週末にエルドアン・トルコ大統領が「自分が生きている限り、金利の罠には落ちない」と述べたことで同国からの資金流出懸念が活発化し、週明けのオセアニア市場ではトルコリラ円が15.46円と先週末終値から10%超急落。日経平均株価も大幅安となったことでリスク回避姿勢が高まり、ドル円は一時110.11円と6月28日以来の安値を付けた。もっとも、「トルコに拘束されている米国人牧師ブランソン氏が8月15日までに釈放される」との噂が伝わると、過度なリスク回避姿勢が後退。110.94円まで反発する場面があった。

14日

日経平均株価が前日の下落に対する反動から500円近く反発するとドル円にも買いが入った。海外時間に入っても、株高や米長期金利の上昇を背景に買いの流れが続き、一時111.32円まで上値を伸ばした。

15日

ドル円は5・10日(ゴト一日)とあって仲値に向けた買いが先行し、一時111.43円まで値を上げた。ただ、111円台半ばのレジスタンスに頭を抑えられると、その後は一転して売られる展開に。欧米株式相場下落で投資家心理が悪化すると、円高・ドル安が活発化し一時110.43円まで下げ足を速めた。

16日

「中国商務次官が8月末に訪米して通商協議を行う」と中国商務省が発表すると、日経平均株価とともにドル円は買いが強まった。ダウ平均が大幅に上昇したことも相場を支え、一時111.12円まで上げた。一方、ムニューシン米財務長官が「牧師が釈放されなければ追加制裁を準備する」と発言するとやや上値が重くなった。

17日

週末を前に全般ドル安が進んだ影響からドル円はじりじりと値を下げた。「トルコ裁判所がブランソン米牧師解放の控訴を却下」との報道が伝わると、リスク回避的な売りが強まり、一時110.32円まで下押しした。ただ、「米中両国の当局者は貿易問題の行き詰まりを打開するため、11月に首脳会談を実現させることを視野にロードマップを作成中」とのWSJ紙の報道を受けて110.60円台まで切り返す場面もあった。

総括

先週のドル円は方向感がなかった。週明けはトルコへの懸念からリスク回避姿勢が高まり、110.11円と6月28日以来の安値を付けて始まったが、その後は買い戻しが強まった。14日には日経平均株価が大幅に反発したほか、15日は本邦実需勢の買いも重なり111.43円まで持ち直した。一方、米財務長官の発言などで米・トルコ間の緊張感が高まると再び売り圧力が高まり、17日には110.32円まで押し戻された。

先週の注目された経済指標結果

日付	時刻	曜	通貨	指標名	比	月	前回値	改定値	予想値	結果
14日	15:00	火	DEM	GDP	前期比	4-6月期	0.3%		0.4%	0.5%
14日	18:00	火	EUR	GDP	前期比	4-6月期	0.3%		0.3%	0.4%
15日	17:30	水	GBP	CPI	前月比	7月	0.0%		0.0%	0.0%
15日	21:30	水	USD	小売売上高	前月比	7月	0.5%	0.2%	0.1%	0.5%
16日	10:30	木	AUD	新規雇用者数	*	7月	5.09万人	5.82万人	1.50万人	-0.39万人
16日	21:30	木	USD	フィリー指数	*	8月	25.7		22.0	11.9
16日	21:30	木	USD	住宅着工件数	前月比	7月	-12.3%	-12.9%	7.4%	0.9%

一言コメント・・・米小売売上高などは予想を上回ったものの、ドル買いでの反応は鈍い一方、フィリー指数など予想を下回る指標にはドル売りで反応しやすい地合いとなりました。

先週の注目された要人発言

13日17:36 トルコ大統領報道官「トルコ経済は強い、誰も投機的なニュースに注意を払うべきではない」「財務省、中央銀行、銀行の監視機関は必要な措置をとる」
 14日10:27 米当局者「牧師拘束問題でトルコリラがメルトダウンするとトルコに警告」
 4日17:45 エルドアン・トルコ大統領「トルコは露骨な経済的攻撃に直面している」「トルコリラ下落を正当化できる異常な状況にない」「ドルリラは4.8リラから7リラまでどうやって上がったんだ」「トルコの銀行は破綻しない」
 15日10:40 麻生太郎副総理兼財務・金融相「サマータイム導入はいろいろな意味で悪い話ではない」「円もユーロもあまり大きな動きはない」「トルコリラ下落、注目してみなければならぬと思っている」
 16日08:07 グアハルド・メキシコ経済相「米国と北米自由貿易協定 (NAFTA) 合意、今月中を目指したい」
 16日10:33 中国商務省「中国商務次官が貿易交渉で8月後半に訪米する」
 16日21:41 クドロー・NEC委員長「欧州との貿易協定において著しい進展が見られる」「中国の代表団が協議のため米国に来ている」「ドルの安定は信頼の証」「米牧師の拘束と鉄鋼関税は関係ない」
 17日01:32 ムニューシン米財務長官「牧師が釈放されなければ追加制裁を準備する」
 17日08:37 ロウRBA総裁「豪経済は正しい方向に進んでいる」「次回の行動は利上げの可能性が高く、利下げでない」「政策金利を当面据え置く可能性が高い」「豪ドル安は助けになるだろう」
 18日03:13 ハセットCEA委員長「来週の中国との協定でポジティブなサインを発表する公算」「EU・メキシコの貿易交渉で進展」

一言コメント・・・トルコをめぐる発言に一喜一憂する展開。先週前半はトルコ通貨リラが反発したものの、後半は再び売られる展開となりました。市場は米国と中国の貿易摩擦に関する要人発言にも振られる展開となりました。

今週の経済指標

日付	時刻	曜	通貨	指標名	比	月	前回値	改定値	予想値
22日	23:00	水	USA	中古住宅販売件数	前月比	7月	-0.6%		0.6%
22日	27:00	水	USA	FOMC議事要旨	*	*	*	*	*
23日	20:30	木	EUR	ECB理事会議事要旨	*	*	*	*	*
23日	23:00	木	USD	新築住宅販売件数	前月比	7月	-5.3%		2.7%
24日	8:30	金	JPY	生鮮食料品除CPI	前年比	7月	0.8%		0.9%
24日	15:00	金	DEM	GDP改定値	前期比	4-6月期	0.5%		0.5%
24日	23:00	金	USD	パウエルFRB議長発言	*	*	*	*	*

今週の注目は・・・FOMC議事要旨やFRB議長発言

GIweekly今週のマーケットポイント [限定版]は

『ひまわりFX WEB/PRO』にログイン後
「マイページ」にてご覧いただけます。

- 今週のドル円相場見通し
- 今週のGI24コメンテーターの一言
 - － 荻野金男
 - － 和田仁志
- 今週の注目経済指標
- 今週のテクニカルポイント
- 先週のコメント
 - － 今井雅人
 - － 越後屋の小言

情報提供元：株式会社DZHフィナンシャルリサーチ

株式会社DZHフィナンシャルリサーチより提供している情報（以下「情報」といいます。）は、情報提供を目的とするものであり、特定通貨の売買や、投資判断ならびに外国為替証拠金取引その他金融商品の投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はあくまでお客様ご自身の判断と責任において行ってください。また、予告なしに内容を変更することがありますのでご注意ください。商用目的で情報の内容を第三者へ提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容によって生じた如何なる損害についても、（株）DZHフィナンシャルリサーチは一切の責任を負いません。